

ノアルコトヲ知ツテ居ラレタ

いちゐト異ツテ高サハ僅カ數尺ダガ横ヘト擴ガツテキテ大山デハ一株デ優ニ數反歩ヲ覆フテキルノデハナイカト思ハレルモノガアル、其材ノ年輪ハ甚ダ細カデ前頁ノ寫眞ニ示ス通りデアルガ此寫眞ノモノハ幹ノ上側ハ下側ニ比シテ發達不完全デ從ツテ年輪ノ數ガ少ナイ(是レハ多少傾斜地ノモノデアルセイデモアラウカ)兎ニ角伯耆ノ大山ニ此ノ様ナ林叢ガアルノハ頗ル珍ラシイコトダ、幸ニ先頃コレガ天然記念物トシテ内務省デ保存サレル様ニ指定サレタノハ何ヨリ喜バシイコトデアル

## ○あかめがしは等ノ芽ノ色

東京帝國大學、藥學科、生藥學教室 藥學士

木

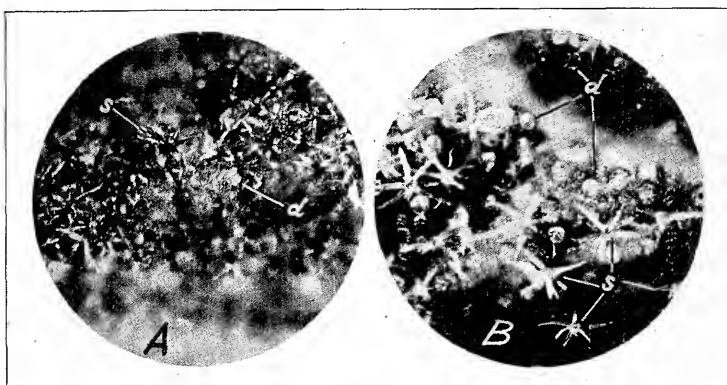
村

康<sup>カウ</sup>

一<sup>イチ</sup>

**あかめがしは** (*Mallotus japonicus* Murr. Arg. たかとうだい科) ハ其名ノ如ク其嫩葉ハ誠ニ美シイ紅色ヲ呈シテ居ル、試ニ其表面ヲ「ルーベ」デ檢スルニ無數ノ紅ク染ツタ毛ガ密生シテ居ルノガ認メラレル、爪デソツトカイテミルト其毛茸ハソックリ分離シテ葉ノ表面ガ現ハレル葉ソノモノハ綠色ヲ呈スルノミデ何等紅色ヲ帶ビテ居ナイ、紅イ毛茸ノ少許ヲ取り顯微鏡下ニ檢スルニ洋紅色ノ色素溶液ヲ滿シテ居ル星狀毛デアルノヲ認メル、色素溶液ハ多クハ毛ノ中ニ全滿シテ居ルガ中ニハ全滿シテ居ナイ許リデナク球狀ヲナシテ點在シテ居ルノモアル、此星狀毛ハ嫩葉ニ於テハ紅色ヲ呈シテ居ルガ已ニ數廻ニ生長シタ葉デハ紫紅色デ更ニ生長シタモノニアツテハ紫褐色乃至紅褐色或ハ進ンデ黃褐色ヲ呈シテ居ル、星狀毛ノ存在ハ葉ノ裏面ヨリハ表面ニ密デ往々裏面ニハ全ク色素ヲ缺イダ星狀毛ヲ有ツテ居ルノモアル、又成葉ニ於テモ毛茸ノ分布極テ粗デアルノハ葉ノ生長ニヨル表面積ノ擴張ニ拘ハラズ毛茸ハ特ニ増加セズ且却テ脱落シ易イ爲デアラウ、此様ナ譯デ嫩葉ノ表面ハ其葉ノ内部ノ葉綠素ノ呈スル綠色ガ葉ノ表面ニ密生スル毛茸ニ蔽ハレテ此ニ美シイ紅色ヲ呈スルノデアアル

あかめがしは等ノ芽ノ色



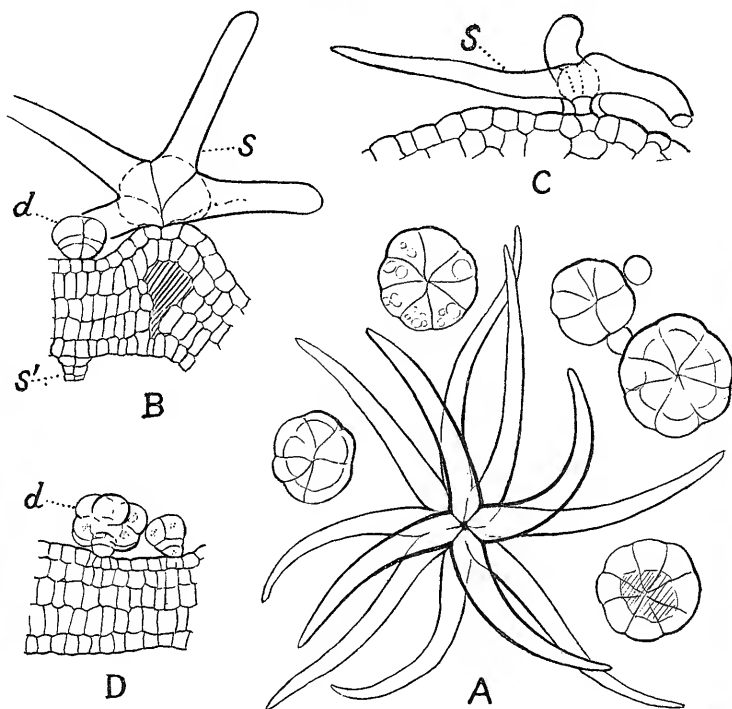
あかめがしは等ノ芽ノ色

(木村原圖)

- (A) あかめがしは (*Mallotus japonicus* MUELL. ARG.) ノ  
嫩葉ノ上面ノ星狀毛 s 及ビ腺毛 d ヲ示ス (擴大)  
(B) 同上ノ下面ノ星狀毛 s 及ビ腺毛 d ヲ示ス (擴大)

サテ此ノ色素ハ二三ノ試験ニヨリ大體「アントチアン」即チ花、果實等ニ紅、青、紫等ノ色ヲ與ヘル花青素ノ反應ヲ呈スルコトヲ認メル、水及「アルコホル」ニ溶ケ殊ニ稀鹽酸ニハ極メテ速カニ鮮紅色ヲナシテ溶出スル、十倍ノ「カリ」液ヲ注グト紫ヨリ深綠色、更ニ褐赤色トナリ長時間ノ後ニハ遂ニ液ハ黃色ヲ呈スルニ至ル、鹽酸々性溶液ニ「カリ」溶液ヲ加ヘテ「アルカリ」性トシテモ同ジ結果ニ到達スル、炭酸曹達溶液ニヨツテハ「カリ」ノ場合ニ於ケル結果ニハ容易ニ達シナイ、紫色又ハ深綠色ノ溶液ハ鹽酸ニヨツテ赤變スルコトガデキルガ褐色乃至黃色ニナツタモノハ鹽酸ヲ注イデモ最早赤クナラヌバカリデナク却テ褪色スル、併シ褐赤色ノモノハ鹽酸々性デ「マグネシウム」金屬ヲ投ズレバ又淡紅色ヲ呈スルニ至ル、次ニ葉表ノ毛茸凡ソ一平方糎位ヲ剝ギ取ツテ載物硝子ノ上ニ置キ稀鹽酸ヲ注ギ蓋硝子ヲ蓋フテ數日間放置シ殆ンド水分ノ蒸發シタ頃之ヲ鏡檢スレバ點々トシテ極メテ小サナ針狀結晶集團粒ノ散在スルノヲ認メル即チ此ノ「アントチアン」ノ鹽酸鹽ハモトリシュ氏ノ言フ如ク果シテ結晶スルノデアアル

次ニ嫩葉ノ毛茸中ニ紅色又ハソレニ類似ノ色素ヲ含ンダモノ、二三ノ例ヲ舉ゲルト、(一)あまぎりノ嫩葉ノ橙褐色ヲ呈スルモノ、表裏面ニハヤハリ星狀毛ガ密生シテ居ル、あかめがしハニアツテハ紅イ



(木村眞嗣)

(A) あかめがしは (*Mallotus japonicus* MUELL. ARG.) ノ星狀毛  
及ビ腺毛ヲ上面ヨリ視タルモノ (擴大)

(B, C, D) 共ニあかめがしハノ嫩葉ノ縱斷面、腺毛 d 星狀毛 s 及ビ  
毛茸ノ脱落シテ柄細胞 s' ノミ殘留セルモノ

ヲ示ス (擴大)

色素ハ星狀毛ニノミ見ラレ他ノ毛茸ニハ見ラレナカッタガあをざりデハ星狀毛ニ紅イ色素ノ全滿シテ居ルノハ少ナク黃褐色ヲ呈スルモノサヘアリ却テ或ル種ノ大形ノ腺毛ニ充滿シテ居ルノヲ認メルノデアル、(二)あかめがしノ嫩葉ハ極メテ細長イ星狀毛ヲ密生シテ美シイ白色絹光澤ヲ呈シテ居ル、葉ハ始メ閉デテ唯其裏面ノミガ出テ居ルガソノ縁邊ニ微ニ淡紅色ヲ帶ビテ居ルノヲ見ル此ノ部分ノ毛茸ハ其基部ニ僅カニ紅イ色素ヲ含デ居ルノデアル、少シ生長シタ開イタ葉ニアツテハ其組織内ニ赤褐色ノ色素ヲ生ジ又毛茸モ黃褐色ヲ呈スルニ至ル、(三)しひノ嫩葉ノ裏面ニハ以上三者ノ星狀毛ニ比シ遙ニ小サキ鱗毛ヲ有シ其柄狀細胞附近ニ



(木村原圖)

あかめがしは (*Mallotus japonicus* MUELL. ARG.) あなざり (*Firmiana plantanifolia* SCHOTT ET ENDL.) あかがし (*Quercus acuta* THUNB.) しび (*Pasania Sieboldi* MAK.) 及ビ あかざ (*Chenopodium album* L.) ノ嫩葉面ノ毛茸並ニ腺(擴大) ●(1) あかめがしは、葉ノ裏面ノ星狀毛、●(2) 同、腺毛(色素ヲ含マズ)、●(3) 同、表面ノ星狀毛ノ平面圖、●(4) 同、表面ノ星狀毛、●(5) 同、裏面ノ腺毛 ●(6) あなざり、葉ノ表面ノ星狀毛、及ビ(7) 腺毛(色素ヲ含ム)、(9) 同、表面ノ腺毛、(8) 同、裏面ノ星狀毛ノ側面圖 ●(10) あかがし、細長キ星狀毛 ●(11) しび、鱗毛ノ側面、及ビ(12) ソノ平面圖 ●(13) あかざ、腺毛ノ平面、及ビ(14) 側面圖、(13') (14') ハ破壊シテソノ内容物ヲ失ヘルモノ

紅イ色素ヲ含ンデ居ル、(四)あかざノ嫩葉ヲ見ルニ白色、桃黃色又ハ莖桃色等ノ美シイ光輝アル粉末デ蔽ハレテ居ル是レハ球形、卵形、瓢形等大小ノ腺毛ニ色素ノ溶液ヲ滿シタモノ或ハ其肥大破壊シタモノガ密生シテ居ルノデアル此ノ莖桃色ノ色ハ鹽酸々性ニ於テ變化ナク「アルカリ」ニ由テ莖色ヲ經テ黃色トナル、黃色ニナツタバカリナラ鹽酸ニヨリ復色スルガ暫ク放置シタモノハ復色セズ「マグネシウム」ヲ投ジテモ褪色スルバカリデアル

# ○我等が敬愛セル梅村甚太郎先生ノ事ドモ

中京植物學會々員 吉川芳秋

本誌ノ主筆牧野富太郎先生カラ梅村甚太郎先生ノ小傳ヲ書ケト頼マレタノハ春モ餘程更ケタ新緑野邊ニ馨ル五月頃ノコトダッタ